

株式会社 ヴィア・ホールディングス 御中

「アフリカの角」における  
干ばつ・食料危機被災者に対する緊急支援事業  
完了報告書



2018年9月  
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

## 1. 事業概要

対象国・地域	エチオピア、ケニア、ソマリア
事業期間	2017年7月1日～2018年6月30日
総支出額	3,067,460円
事業目的	① 保健・栄養状態改善のための緊急支援、② 水衛生設備の設置や中長期生計支援、③ 教育や子どもの保護の活動を通して、干ばつの影響により食料不足や栄養不良状態にある人々の命を救い、生活再建を支援します。

「アフリカの角」と呼ばれる、エチオピア、ケニア、ソマリアの3ヶ国では、2016年より干ばつが深刻化しており、多くの子どもたちおよび家族が支援を必要としています。セーブ・ザ・チルドレンは同地域において、食料、保健・栄養、水・衛生など様々な分野にわたる支援を実施しています。株式会社ヴィア・ホールディングス様からのご支援は、この「アフリカの角」における干ばつに対する支援活動に活用させていただきました。



## 2. 背景

アフリカ東部「アフリカの角」と呼ばれる地域に位置するエチオピア、ケニア、ソマリアの3ヶ国では、2016年10月以降、雨量が極端に少なく、干ばつが深刻化しています。多くの人々がそれまで生計を立てていた家畜などの財産を失い、現在も300万人以上の人々が避難生活を送っています。1,400万人以上の人々が安全な飲料水へのアクセスがなく、また、食料支援を必要とする人々は1,300万人以上、栄養支援を必要としている子どもは420万人以上います。

セーブ・ザ・チルドレンは、以前より同地域で活動していましたが、この干ばつの発生による人々への甚大な影響を受け、子どもたち及びその家族が安全に暮らすことができるよう、子どもの保護、食料・生計支援、水・衛生、保健・栄養、教育など様々な分野にわたる活動を行い、2018年6月30日時点で470万人以上の人々へ支援を届けました。



栄養補助食の支援を受けた子ども  
(2018年6月、ケニア)

## 3. 活動報告

### 子どもの保護

長期化する厳しい生活環境の中で、多くの子どもたちがストレス下での生活を余儀なくされています。子どもたちが健やかに成長できるように、安心して安全に過ごすことができる場所をつくり、また、心理社会支援を提供したりしました。さらに、虐待や性的暴力などのリスクにさらされている子どもなど、特に脆弱な状態にある子どもたちには、必要なサービスに適切につながるよう支援しました。

## 食料・生計支援

干ばつの影響により、多くの人々が家畜などの生計手段を失い、その結果、食料を得られない日々が続いています。セーブ・ザ・チルドレンは、小麦粉、米、砂糖、油が入っている食料を特に脆弱な世帯に配布したり、現金給付を行い、各家庭が食料やそれ以外の必要な生活物資を得られるよう支援したりしました。また、厳しい生活が続く中、家族が農業や牧畜による生計を回復できるよう支援しました。ケニアではこれまでに、干ばつの影響を受けた 4 万人以上に対し、生計をたて直すための現金給付を行いました。

## 保健・栄養支援

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちの健診、必要に応じた保健センターでの治療や栄養補助食の提供などのほか、妊婦や母乳育児を行う母親に対する栄養支援や栄養カウンセリングなども実施しました。また、マalaria、肺炎、下痢などに罹患した子どもたちの治療や予防接種なども実施しました。ソマリアではこれまでに、70 万人以上に対し無料の保健サービスを提供し、また、5 歳未満の子ども 150 万人に対し栄養状態の検査を実施し、必要な支援を届けました。



保健センターでの健診の様子  
(2018 年 5 月、ソマリア)

## 水・衛生支援

長期にわたる干ばつによる水不足は深刻で、安全な水へのアクセスは人々の健康状態にも大きく影響します。セーブ・ザ・チルドレンは、給水車による水の支援、井戸などの給水設備の設置・修復のほか、感染症の発生・流行を防ぐために、衛生用品の配布や、衛生習慣改善のための研修、啓発活動なども実施しました。地域住民からなる「水管理委員会」や、衛生に関する啓発活動を行うボランティアに対する能力強化も行いました。ケニアではこれまでに、40 万人以上の人々に対し、飲料水や家庭用水の提供、また衛生用品の提供などのサービスを提供しました。

### 【アルドさんのケース・ストーリー】

「私は、飼育していた 100 匹の豚、40 頭のラクダ、10 頭の牛などを全て干ばつで亡くしました。8 人の子どもを連れて 25 km 歩き続け、同じエチオピア国内の別の地域にやってきました。」避難先の居住区で、アルドさん（35、写真中央）一家は、セーブ・ザ・チルドレンの支援により清潔で安全な飲料水を得ることができ、また子どもたちは全員、セーブ・ザ・チルドレンが建てた学校で教育を受けることができています。さらに、食料の支援や栄養支援も受けています。



アルドさんは、支援を受けるだけでなく、コミュニティ・ボランティアとして活躍しています。「地域の人々に対し、セーブ・ザ・チルドレンが設置したトイレを清潔に保つよう啓発したり、また、衛生意識向上のための働きかけも行っています。“安全な水”はとても大切なもので、それが手に入ることはとても幸せなことなのです」とアルドさんは言います。

### 【エウオイさんのケース・ストーリー】

ケニアに住むエウオイさん（31、写真中央）は3人の子どもの母親です。干ばつの影響で家畜を失い、家族全員の食料の確保に困難を抱えていました。エウオイさん自身も栄養不足になり、1歳の子どもの母乳を与えるのも難しくなりました。「私たち家族は、1日1食をとれるかとれないかの日々が続きました。子どもの健康状態は日に日に悪くなりました。私が籠などを作って稼いだお金は全て子どもの薬代になり、食べ物を買うことはできなかったのです」とエウオイさんは言います。



セーブ・ザ・チルドレンの保健活動で、エウオイさんは低体重と診断され、栄養強化プログラムに参加することになりました。そして、トウモロコシや大豆などの食料と子どものための栄養補助食を、毎月提供されることになりました。「セーブ・ザ・チルドレンのおかげで、私たち家族は健康でいることができている。今は1日2食をとることができ、子どもたちもすぐに体調を崩してしまうことはなくなりました」と言ったエウオイさんは、こう続けました。「しかし、もしこの干ばつが続き、食料支援が終わってしまったら、私たち家族はどのように生きていけばよいのかと、不安になる時があります。」

## 4. 今後について

厳しい状況が続く「アフリカの角」地域では、支援を必要とする人は今も多くいます。セーブ・ザ・チルドレンは、引き続き、喫緊のニーズに応えるため保護、食料・生計、保健・栄養、水・衛生、そして教育の分野で支援を続けていきます。また、この困難な状況に対し地域社会が耐えるよう、地域社会の対応能力を高める支援も実施していきます。さらに、子どもたちが健康に生き、学び、守られるよう、長期的な復興・開発プログラムの支援も行っていく予定です。

以上